



駒本の力

駒本小学校(家)
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 6
平成27年7月1日

4つの言葉を大切に2

「はい」「ありがとうございます」「お願いします」「ごめんなさい」の4つの言葉の指導に力を入れていることを前号でお伝えし、「はい」について説明をしました。徐々にですが、子どもたちに浸透してきており、それぞれの教室で4つの言葉が増えてきています。今号では、残りの3つの言葉について説明します。

2. 「ありがとうございます」

駒本の子たちとふれ合っていく中で感じるのは、丁寧でしっかりとした子がたくさんいるということです。良い行動をほめると、すかさず「ありがとうございます」という言葉が返ってくる子がいます。すばらしい躰と指導を受けているということが分かります。それぐらい「ありがとうございます」をすぐに言えるということはすばらしいことなんですね。誰かから何かをしてもらったり、褒めてもらったり、指導してもらったりしたときに、すぐに「ありがとうございます」と言えるように教えていきましょう。「ありがとうございます」とたくさん言える人は、謙虚で素直で豊かな人であると思います。これは大人も子どもも同じです。大人も子どもも駒本小や家庭内で「ありがとうございます」の言葉で溢れるよう指導していきましょう。

「ありがとうございます」は、次の「お願いします」と深く連動していますので、次の項目で説明します。

先日、校内を回っているときに、一年生の教室で、先生がプリントを配布するとき、「はいどうぞ」という言葉がけをしていました。前列の子どもがすかさず、「ありがとうございます」と言っていました。さらに、後ろの子に「はいどうぞ」、受け取った子が「ありがとう」と伝え合いながら配布していました。とても素敵な光景を観ることができ大変うれしく思いました。

3. 「お願いします」

誰かに何かをしてもらいたい時に、「お願いします」の一言がとても大切です。特に先生方に子どもたちが何かを提出するとき、指導を仰ぐとき、何かをしてもらいたいとき、様々な場面で「お願いします」が子どもたちから進んで出ることが大切です。プリントを見てもらいたいときに、「お願いします」、「とてもよくできましたね」、「ありがとうございます」との言葉のサイクルが確立するとクラスの雰囲気は大きく良い方向に変化していきます。もう一つ付け加えると、子どもたちから「ありがとうございます」の後に、私たち教員が「どういたしまして」と加えると完璧ですね。英語では「サンキュー」「ユアウェルカム」となります。「どういたしまして」も大切にしていきたいものです。

4. 「ごめんなさい」

失敗は子どもでも大人でも数多くあります。友達に言い過ぎてしまったり、やり過ぎて

しまったり、何かを壊してしまったり、ルールを守れなかったり、誰かに迷惑をかけてしまったり、やるべきことを忘れてたり、ミスを犯してしまったりと、「ごめんなさい」と言わなければならない時はたくさんあります。この時に、「でも」「だって」「自分だけが悪いわけではない」等の言い訳をするのか、それともすぐに「ごめんなさい」が言えるのかによって状況は大きく変わります。「素直さは伸びるコツ」と言って、素直に「ごめんなさい」が言える素直な子どもたちを育成していきたいものです。まずは大人が模範を示すことです。家庭でも大人から「ごめんなさい」と言える雰囲気をつくっていきましょう。

セーフティ教室で自分も人も守れる力を！

27日の学校公開日には、1. 2年生、3. 4. 5. 6年生の2部に分けて、駒込警察署の方をお招きして、セーフティ教室を実施しました。低学年では、「いかのおすし」を中心に不審者から身を守る方法について、交通事故では被害者にも加害者にもならないために気を付けたいことについて学びました。高学年では、「万引きは犯罪だ！」という万引きは窃盗という犯罪であること、そのようなことに巻き込まれないようにするために大切なことを学びました。また、インターネットの使い方についても学ぶことができました。このように学校では、子どもたちの日常の生活で身に付けてほしいことを定期的にセーフティ教室等で学習しています。自分も人も守れる力を身に付けてほしいと願っています。



だっでの前に、ごめんなさい

4つの言葉で、もっとも難しいのが素直な気持ちで、「ごめんなさい」と言えるかどうかです。「ごめんなさい」の大切さを教えるときに私が遣ってきた言葉が、「だっでの前に、ごめんなさい」です。とにかく、人は失敗したときに言い訳を考えます。しかし、この言葉は言い訳を先に言うことを許していません。まず謝って、それで、もし理由を聞かれたら、その理由を言うということです。言い訳をしている時の子どもたちは、決して素直な気持ちになっていません。「だって、あの子もしていた」「自分には悪くない」等々、さらに、叱られたくないから、自分を守るために嘘さえついたり、その場から逃げ出してしまうという行動に出ます。これでは子どもたちの素直な心を育てることはできませんし、そのような子どもの状態を放っておくわけにはいきません。

子どもたちを謝り上手にすることはとても大切なことです。ただ謝ればいいというものではないという考え方もありますが、まず素直に謝れる子どもにすることは、とても大切なことであると考えます。

あるクラスの子どもは授業のスタートの時刻に着席できず遅刻したときに、「遅くなって、ごめんなさい」と言っていました。とても素敵な言葉でした。場が和みますし、学びへの素直さや謙虚さを感じました。素直さが前面に出てくると、幼く見えます。むしろそれは幼さと言うよりは、素敵な可愛らしさであると思います。素敵で可愛い素直な子をたくさん育てていきましょう。